

<二級河川閉伊川河川災害復旧(23災662号)工事 事業概要>

◆二級河川閉伊川の概要

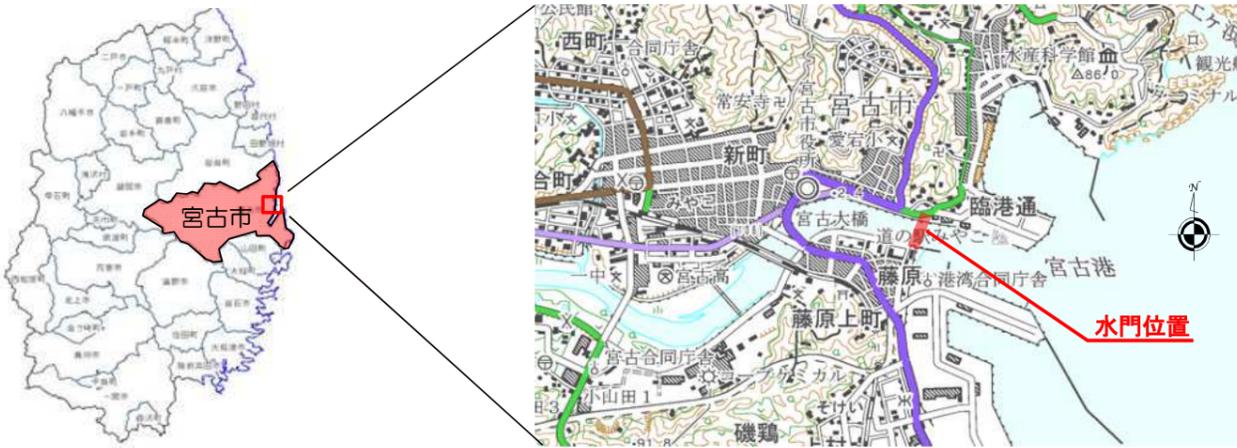
・閉伊川は、北上高地の区界峠に源を発し、山間部を蛇行しながらJR山田線、国道106号に沿って東流し、途中、小国川、刈屋川、長沢川、近内川、山口川などの支流を合流しながら、宮古市街地を貫流後、宮古湾に注ぐ流路延長88.2キロメートル、流域面積972.0平方キロメートルの県内屈指の二級河川である。

・この流域は、下流域に三陸沿岸の拠点である宮古市街地が広がっているほか、国道45号、106号、JR山田線及び三陸鉄道などの交通網が密集する沿岸地域の交通の要衝となっており、水域にはアユ、イワナ等の魚類が豊富で、シーズンには釣り人で賑わい、秋には多くのサケが遡上している。

・閉伊川河口部には、チリ地震津波(S35)を契機として、高さT.P.5.26mの河川堤防が昭和41年に完成している。

◆被災状況

・東日本大震災では、地震により河川堤防が沈下するとともに、越流した津波が背後の市街地に流れ込み、甚大な被害が発生した。



◆復興まちづくり計画

・宮古市東日本大震災地区復興まちづくり計画 (愛宕・築地・光岸地区)

- ①海岸保全施設整備事業(県施行)
防潮堤等の整備により津波を防御し、従前地での再建を促進する。
- ②都市再生区画整理事業(市施行)
国道45号から浄土ヶ浜に向かう都市計画道路の整備に併せて、一体的に整備する。
- ③災害公営住宅整備事業(市施行)
住宅を確保するため、災害公営住宅を整備する。



◆水門計画

●H23.7.8付海岸関係省庁通知に基づき、以下の手順で計画堤防高を設定した。

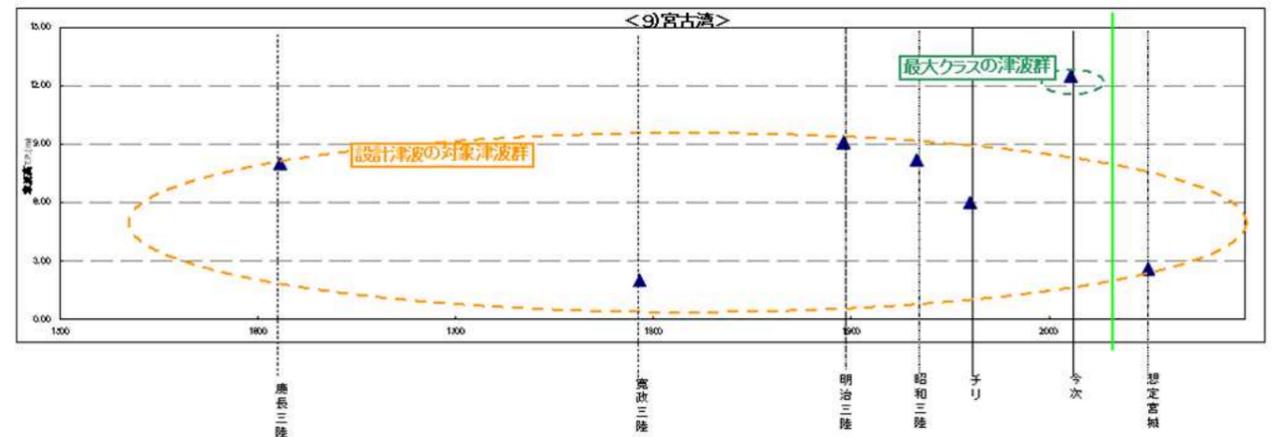
- ①過去に発生した津波の中から設計対象津波を選定
- ②せり上がりを考慮した津波の水位を算出し、設計津波の水位を算定
- ③余裕高1.0mを加えた高さを新計画堤防高として設定

●「岩手県津波防災技術専門委員会」での審議を経て、宮古湾(閉伊川水門含む)では新計画堤防高をT.P.+10.4mと設定し、水門を新設する。

◆計画高の設定

単位:m(T.P.)

地域海岸名	設計津波		堤防高設定値	被災前現況堤防高
	対象地震	設計津波の水位		
宮古湾	明治三陸地震	9.4	10.4	8.5



<二級河川閉伊川河川災害復旧(23災662号)工事 事業概要>

◆復旧概要 (水管理・国土保全局所管)

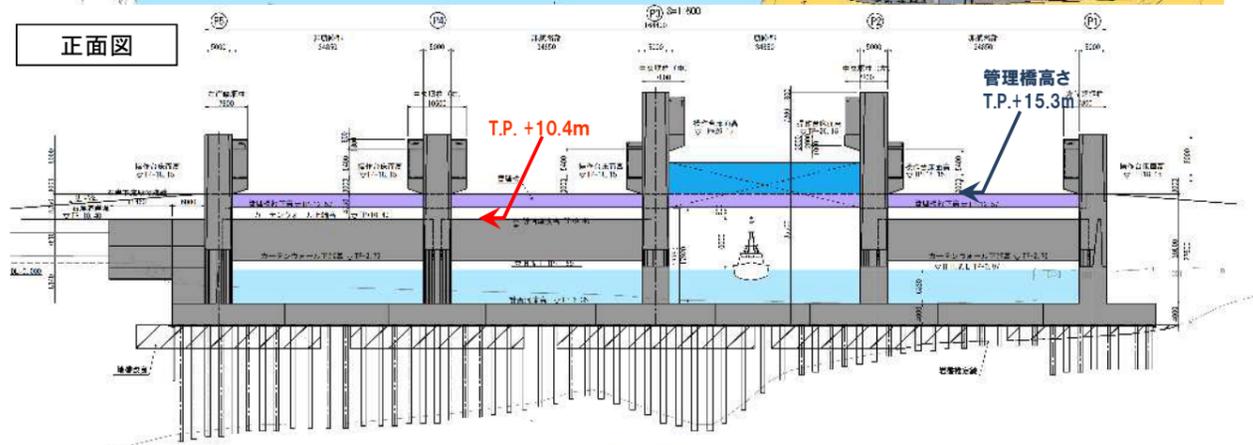
全体平面図



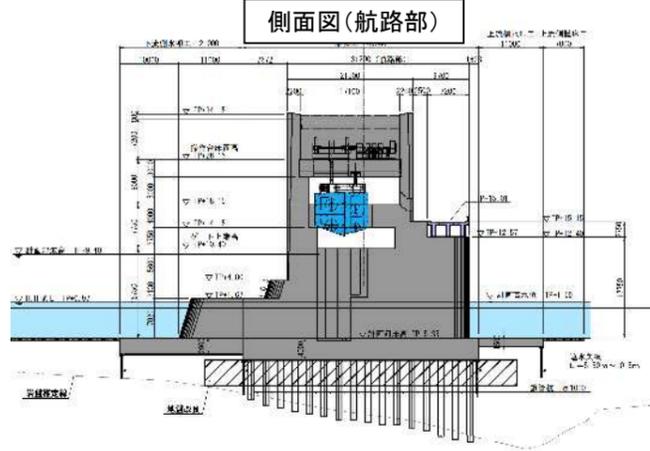
○水門基本諸元

水門延長、径間数 164.4m、4径間(34.85m×4)
 水門敷高 T.P.+5.35m
 計画高水位(HWL) T.P.+1.59m
 カーテンウォール 下端高 T.P.+2.79m、天端高 T.P.+10.4m、
 中空ボックス断面PC桁構造

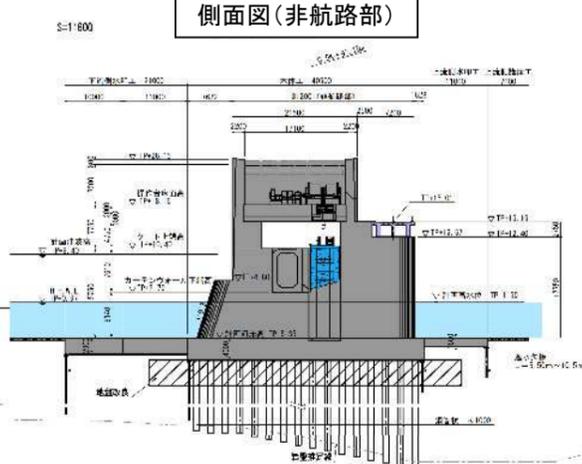
正面図



側面図(航路部)



側面図(非航路部)



ドローン写真(全景写真:R7.6)



II期仮締切内 施工状況



右岸取付道路 施工状況



左岸取付道路 施工状況



完成イメージ図

